

# 市民会議「安土の夢」 まちづくりの指針

平成 28 年 1 月 14 日(木)

文責：辻 貴史

この頃、町内で出会う人から、「頑張ってくださいね。いつも楽しみに読んでいます。」と良く声を掛けられる。年配の方も多くて、『みなさん、ブログを見ておられるのかな?』と思って聞けば、プリントされた紙ものであった。いったいどうして不思議だったが、謎が解けた。志を持たれた方が記事を幾枚も印刷して、「コミセン問題について辻さんが書かれた記事です。是非とも読んでください。」と手渡しで配って頂いているのである。私は、『おおー、同志なんだ。』と心強く思った。

さて、これまで私は、なぜ一体型なのかについて色々書いてきたが、なにも批判ばかりしている訳ではない。コミセン建設委員長を務めた中で、これからの安土の「まちづくり」の方法を述べてきた。それが、市民会議「安土の夢」の立ち上げであった。

背景としては近江八幡市との合併がある。それまでは、安土は行政自治体としての安土町であり、そこには「オラがムラの村長さん、町長さん」が居て、殆どの政策は「安土にとって良からう」が基本であって、これについての審判は選挙で是非が問われてきた。しかし合併後は、「あの町、この町の更に向こうの町々をも含めた市長さん」であり、当然のことながら安土に詳しい訳でもなければ、安土だけを考えている訳でもない。選挙で審判を下すには安土の票だけではなんともならない。

そこで、「何とか安土にも金を落として欲しい」との思いを持つ面々は、ややもすると陳情とか要望に走る傾向があり、市長としては、それを政治的に利用する場合もある。

これは安土に限らず、日本中の殆どの学区は安土学区と同様だ。

こうした中で、まちづくりの手法として重要なのは、照らし合わせるべき「安土の将来像（グランドデザイン）」が有るのか無いのかである。これまでの行政体としての安土町ならば、行政主導のまちづくりなり将来像の策定がある程度は期待できたが、広域行政体では、それも期待できないのが実情だろう。

そこで委員会で私が提案したのが、「市民会議 安土の夢」の立ち上げであり、50年後に安土の目指す将来像の策定だ。何を決めるにしても、指針が必要となる。

# 市民会議「安土の夢」 まちづくりの指針

平成 28 年 1 月 14 日(木)

文責：辻 貴史

## A 市民会議「安土の夢」

50 年後 100 年後のランドデザイン策定 について。

- ① 事務局はコミセンに置く
- ② 委員は、広く住民から募る。幅広い年齢層が基本であり、特に将来を担う若い層は不可欠である。将来この中から知事や市長が生まれる可能性もある。
- ③ 住民が策定するものであって、絶えず上書き出来る様な柔軟性を持たせる。
- ④ 30年から50年昔の安土屏風絵（老蘇、下豊浦では完成し、常楽寺は2年後に完成予定）と対をなすものである。
- ⑤ 住民自らが策定する事に意味がある。参加人数は多い方が良く、この集まりこそがまちづくりの基本となり、透明性を確保する。
- ⑥ 策定した目指すべき将来像を実現に向けて行動するのは、住民自らの生活の中にある。過去の箱モノ行政の失敗は、市民不在だからだ。
- ⑦ 取り扱う問題は、安土城址、西の湖、環境、教育、道路アクセス、街並みから子育て、独居老人等の問題まで多岐に渡った方が良い。議論することから始める。
- ⑧ 遠回りと思われるかも知れないが、まちづくりに近道はない。急がば回れで、これが王道である。

これを、今回の安土小学校の問題に当てはめると以下のようなになる。

- ① 本来は、目指す将来の姿が先ずありき、であるが、第一の問題は、今回、突然に安土小学校の移転も含まれた一体型が、ほぼ決定しているかの様に始められたことである。
- ② そこで、後先が逆であるが、仮に移転するとすれば、市小学校の跡地に何をつくれれば良いのだろうか？を議題に乗せた。
- ③ 色々と考え付くだろうが、急には誰も返答できない為に、私が仮に一例として提案したのは、聖地安土構想である。これについては以前にコミセン便りに掲載したので詳しくは触れないが、安土を聖地にして、司祭級の神父の招聘と大浦天主堂規模の教会を誘致することである。
- ④ これを実現するには相当な努力と歳月が必要であって、もしも実現できたならば、二通りの図面を住民に説明し、合意形成を図る。

# 市民会議「安土の夢」 まちづくりの指針

平成 28 年 1 月 14 日(木)

文責：辻 貴史

- ⑤ 1 つは、駅前に聖地安土の教会が出来た場合の案と、もう一つは、安土小学校は現在地のままで、聖地安土の教会はセミナリヨ跡に持っていく案を住民説明会を十分にした上で、住民投票なりで決する。
- ⑥ 100 年以上も続いた小学校の移転は、それだけで大変な問題であるのに、移転した場合の跡地利用が何一つ決まっていない状態で、強引に推し進めるのは、全く理解できない。
- ⑦ 次に一番重要なのは、住民合意である。今回の強引な手法は、区長の印鑑を集めて、それを住民合意にすり替えようとしている点だ。
- ⑧ 例えば、下豊浦地区は、一体型に賛成と善住区長は述べていたのだが、下豊浦地区の実情とは大きくかけ離れている。
- ⑨ 先日、下豊浦地区の歴代区長 16 名が参加して、この問題の為に会議を持たれたところ、賛成は 2 名だけで、後は反対と慎重の意見が殆どであった。
- ⑩ この様なミスリードをして、いったい何をしたいのか、訳が解らない。桐原学区のように跡地が売却されてからでは後の祭りだ。

この問題が湧き起って、安土の将来について考える住民が増えたと私は感じている。これを機会に、目指すべき安土の将来について市民会議を立ち上げ、住民自治の礎（いしずえ）になればと期待している。

